



子どもの発達への 気づき

こども発達相談室の活用を

乳幼児期の子どもの成長を見守る時に、「こころの発達」の視点を持つてみませんか。気になったら、一人で悩まず相談しましょう。

問い合わせ 子育て支援課（東8南13、保健福祉センター内、☎25・9700）

人への信頼感の育成が 子どもの発達の土台

子どもは、大人によって命を守られ、愛され、信頼されることにより、情緒が安定し、人への信頼感が育ちます。

そして、身近な環境（人、自然、事物、出来事など）への興味や関心を引き出し、自発的に働き掛けることにより、心身の発達が促されます。

子どもの発達の個人差と 発達障害

乳幼児期はいくつかの生理的、身体的な条件や育つ環境の違いにより、心身の発達に個人差が大きくみられる時期です。

しかし、自分の子が周りの子に比べて「言葉が遅い」「じつとしていられない」「人や場所に慣れない」などの心配な面がみられると、「発達障害かも」と、不安になるかもしれません。

子どもの発達をサポートする 機関とこども発達相談室

発達に心配や不安を感じた時は、乳幼児健診や地域子育て支援センター、幼稚園・保育所、学校に気

障害支援センター、発達に関する専門医療機関もあります。子どもの見方や対応の仕方など、一緒に考えていきましょう。

関係機関の理解につながる 生活支援ファイル「つながり」

発達に心配や障害のあるお子さんには、保護者が、関係機関に知らせたい子どもの発達や生活の状況、必要な配慮を整理しながら記入できる、生活支援ファイル「つながり」があります。

また、市のこども発達相談室では、赤ちゃんから18歳に至るまでの子どもの発達相談ができます。

こども発達相談室
（☎25・9700）

◆場所 保健福祉センター
◆受付日時 月～金曜日（祝日、年末年始を除く）、8時45分～17時30分

その他にも、児童相談所、発達

書き方説明会に参加した人からは、「いろいろな機関に一から説明しなければいけないこともあり、誰にどの話をしたのかわからなくなることもあるので、記録を残して役立てたいと思った。入学の時にも役立てたい。」との声がありました。

配布場所 保健福祉センター1階窓口、こども課（市庁舎3階）

コミュニケーションの力が芽生える乳幼児期の 発達を見ていく際のポイント

* 「模倣」を引き出す遊び

→大人のまねをすることは、子どもが周囲の人に興味や関心を持ちはじめたことを示しています



子どもは生後9カ月ごろから、周りのまねをしたがるようになります。子どもと向かい合って、車を「ブーブー」と言いながら動かすのを見せて渡すと、同じようにまねをすることが模倣です。

家庭では、コップで「ゴクゴク」と音を立てて飲むふりや、電話を耳に当てて「もしもし」と話すふりをするなど、子どもが模倣するような動作をしてみましょう。

* 「ごっこ遊び」を引き出す遊び

→大人とのごっこ遊びは、場面に合った言葉かけや想像力を育て、やり取りする相手に気持ちを向ける力につながります



1歳を過ぎると、物をまるで別の物のように見立てて遊ぶようになり、2歳ごろには、人形の口に食べ物を運んで食べさせるふりをさせたり、相手が「チョーダイ」と言うと、食べ物に見立てた物をお皿に乗せて「ドーナツ」と差し出したりします。

家庭では、人形やお皿、コップなどを用意しておく、子どもは自分がしてもらっていることを思い出します。一緒にごっこ遊びを楽しみましょう。



行財政運営の 取り組み

帯広市行財政運営ビジョン

行財政運営ビジョンの概要と、平成30年度までの取り組み状況をお知らせします。

問い合わせ 行政推進室（市庁舎5階、☎65・4112）

「行財政運営ビジョン」とは？

市では、市民や企業の皆さんと連携・協力し、公共サービスを効率的、安定的に提供するため、平成25年～令和元年度に行財政運営の基本的な考え方や取り組み内容を示す指針「帯広市行財政運営ビジョン」（以下、ビジョン）を定めています。

ビジョンの取り組みを進めるための「実施計画」

ビジョンを着実に進めるため、31の実施項目について、毎年度、取り組みの工程や成果の見込みなどを「実施計画」として定め、年度終了後には計画に基づいて取り組みができたかどうかの検証を行っています。

平成30年度までの取り組み 状況

平成30年度末時点での取り組み状況は、下図の通りです。

31の実施項目は、ほぼ計画に従った取り組みが進められ、市民の皆さんの利便性やサービスの質の向上に、一定の成果がありました。一方で、定量的に測定できる成果指標として25項目を設定してい

図 平成30年度までの取り組み状況

▶ 実施項目の取り組み状況(31項目)

進捗状況	H25	H26	H27	H28	H29	H30
計画に従い取り組みができた	27	27	28	28	30	30
一部、計画に従った取り組みができなかった	4	4	3	3	1	1
全部、計画に従った取り組みができなかった	0	0	0	0	0	0

▶ 数値化した成果の達成状況(25項目)

※ H29～寄附者に対する返礼品導入に伴い指標を追加

結果	H25	H26	H27	H28	H29	H30
計画を達成した	15	15	14	13	14	15
計画を達成しなかった	9	9	10	11	11	10

平成30年度までの 主な取り組み

○平成25年9月に、道から市に権限が移譲され、パスポートの申請・交付の手続きが、より身近な窓口で可能に。

○平成27年5月に、十勝の消防体制を強化するため、市町村が一体となって「とかち広域消防事務組合」を設立。

○市ホームページのバナー広告枠の拡充、自動販売機設置への入札制度の拡大など、自主財源確保の取り組みを推進。

○新総合体育館の整備運営に、帯広市では初となるPFI事業を導入し、事業を実施中。

○まちづくり活動への支援を進めるため、「Mottottoおびひろ」を広げるプロジェクトを実施し、平成30年度までの6年間で計79件が応募。

新たな計画を策定していきます

市では、これまでも効果的・効率的な行財政運営を図り、持続可能なまちづくりを進めてきました。今後も人口減少や技術革新などの、急速な社会環境の変化を見据え、必要な行政サービスを安定的かつ確実に提供していく必要があります。そのため、基本的な考え方と具体的な取り組みを定める新たな「帯広市行財政改革計画」の策定を進めています。